

みやわき経済3分レポート(No.114)(2026.9.14)

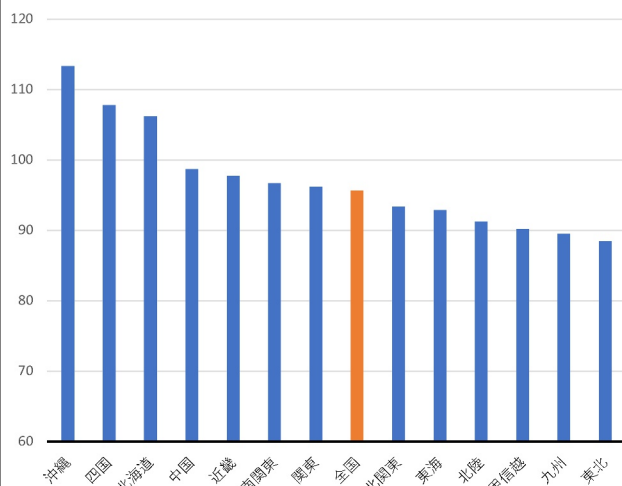
《国内地域経済》

日本政策総研代表取締役社長 宮脇 淳

日本地域経済の格差拡大

内閣府「地域別支出総合指数」によると、2026年6月の地域別消費活動は、全国平均95.6(2012年=100)となった。全国的に消費活動は低迷している中で、沖縄地方は113.4と活況な結果となっている。これに対して、東北地方は88.4、九州地方も89.5と低迷している。各県別に見て、東北地方で宮城県の90.7が最高で他の県は80台の指数となっている。九州地方では、福岡県が全国平均水準、他の県は平均を下回り低水準にある。

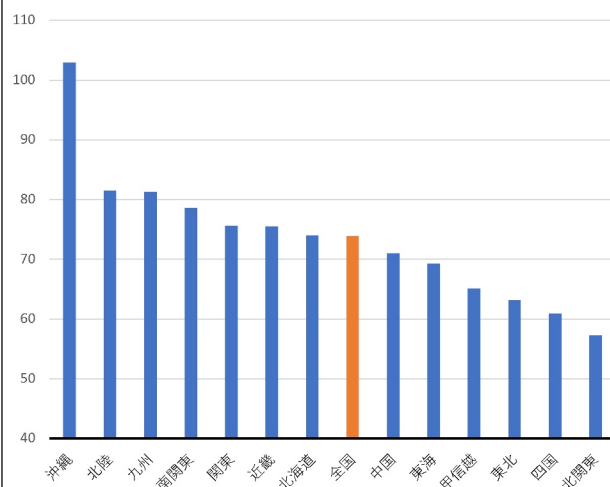
地域別消費活動



日本地域別住宅投資沖縄以外低迷

内閣府「地域別支出総合指数」によると、2026年6月の地域別住宅投資活動は、全国平均73.9(2012年=100)となった。長期的に減少傾向となっている。100を超えている地域は、沖縄地方の102だけである。二番手の水準にある北陸地方、九州地方でもともに81台にとどまっている。最も低い北関東地方では、57.2で2012年投資額の6割まで落ち込んでいる。県別では、新潟県、秋田県が50を切り半分以下となっている。

地域別住宅投資動向



日本地域別設備投資動向沖縄突出

内閣府「地域別支出総合指数」によると、2026年6月の地域別住宅投資活動は、全国平均73.9(2012年=100)となった。地域別設備投資動向は、とくに地域間格差が大きく、沖縄地方の181を筆頭に、九州、東北、北海道の各地方が高水準となっている。これに対して、四国、北陸地方は低水準ではあるものの、住宅投資と異なり2012年=100の水準を下回る地域はない。ただし、県別では、高知県96、島根県75と低迷している。

地域別設備投資動向

